

出版業界における流通課題について

1130428 岡村 沙織

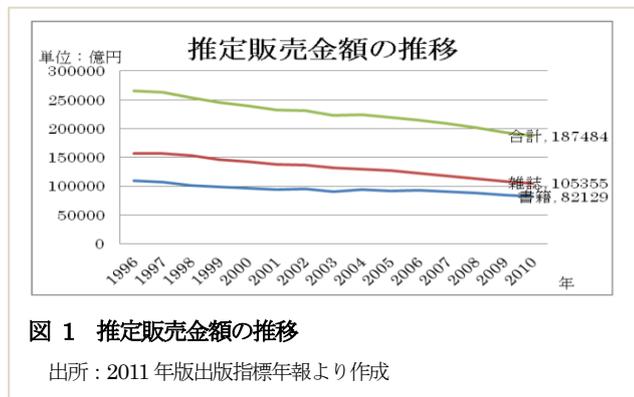
高知工科大学マネジメント学部

1. 概要

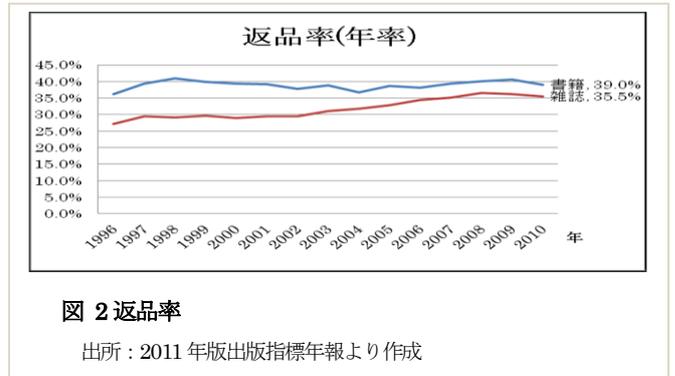
日本の出版業界は、インターネットの普及や電子書籍の出現、少子高齢化といった原因により1996年をピークに低落傾向が続いている。多くの業界が流通の効率化を図りコスト削減を行っている中で、再販制度や委託販売制度などの特殊な形態を持っている出版業界では、他業界に比べて流通の効率化はまだ遅れているのが現状である。そこで、本論文では、既存流通の問題点を明らかにすることで、2つの大きな課題を早急にクリアすることと意識改革の必要性を述べた。

2. 背景

販売金額から見ても分かるように出版業界は1996年をピークに低落傾向が続いている(図1)。2009年に初の2兆円割れとなり、2010年には1兆8千億円になった。2002年や2004年は前年を上回り一時的に回復したが、「ハリー・ポッター」シリーズなどのヒット商品がその要因であり、業界自体の回復にはなっていない。業界低迷の原因は、所得や人口変化もあるが、インターネットの普及や電子書籍の出現、新古書店の成長など、顧客が、情報や本を入手する経路が多様化していることが挙げられ、早急な流通の見直しが求められている。



返品率は年々増加傾向にあり、40%付近を推移している(図2)。



返品率増加による利益圧迫に繋がるなど、業界の大きな問題点として挙げられているのが、業界の特徴的な制度である再販制度と委託販売制度の存在であるが、この制度は存続される見通しで、この制度の中での改革が求められる。

制度の内容とそのメリット等は図3に示す通りである。

	再販制度	委託販売制度
制度内容	全国一律で常に定価で販売する制度。	委託期間内であれば、出版社に返品できる制度。
メリット	・「情報」の価値を一律に出る。 ・読者の不利益を回避できる。	・売れなければ返品できる。 ・入荷意欲の向上。
デメリット	・書店が顧客の要望に合わせて値引きする事が出来ない。 ・競争原理が働かない。	・書店のランク付けに関係。それを元にパターン配本が行われ、書店の要望通りの配本が出来ないことも。 ・返品と在庫のコストを生む

出所：HP「紀伊国屋書店の出版流通に対する見解」、HP「未来はあるのか出版流通」を参考に作成

流通改革として取次大手の日本出版販売が「WWW(トリプルウィン)プロジェクト」をスタートさせているが、抜本的改革にはなっていない。

3. 目的

本研究は、海外の出版業界と新古書店の流通を事例として取り上げ、新刊書店の流通との比較を行い、出版業界における既存流通の課題を明らかにし、「小型書店が生き残れる流通」を目標に新たな流通の形を提案するものである。

4. 研究方法

本研究では、まず出版業界と大型化する書店経営の実情についての先行研究とそれに対する考察を行う。そしてブックオフを事例として取り上げ、書籍流通における日欧比較、並びに新古書・新刊書籍の事業構造の考察を行う。先行研究と事例研究から得られた事実と分析をもとに、日本の出版流通の課題を明らかにし、その課題に対し、業界全体と書店が何をしていくべきなのかを検討する。

5. 結果

商品調達の課題を克服するために、書店はこれから大型化していくと予想されている[2]。小型店の商品調達を難しくしている要因は、再販制度と委託販売制度による書店の意思決定権の弱さや書籍が薄利であること、そしてパターン配本が挙げられる。そこから業界が「情報」を上手く扱えてないことが流通の無駄を生んでいると考察した。

日本の流通の問題点を明らかにするために、制度や市場の状態が酷似しているドイツと、新刊書店とは全く違う流通経路を構築しているブックオフを事例として取り上げ分析すると、ドイツは日本と違い取次への依存度が低く、適切な配本が行われており、返品率が低い。それを支えているのは業界共通のデータベースであることが明らかになった。

一方、ブックオフは、一冊当たりの利益が低いことをカバーするために、自社で製品・価格・流通・広告の4Pをコントロールし在庫の適正化を行っていることが明らかになった。新刊書店とブックオフのサプライチェーン構造の違いは、図4に示す通りである。

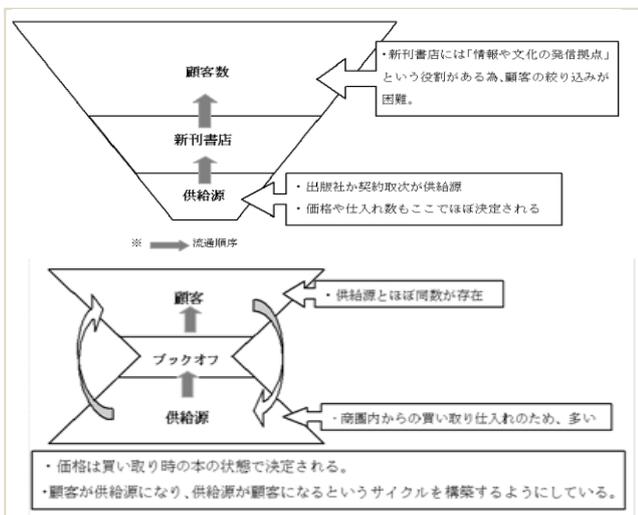


図4 新刊書店(上)とブックオフ(下)のサプライチェーン構造の比較

また、2つの事例に共通していることは、店舗の意思決定が尊重されており、店員が販売に積極的であるということである。

以上のことから、今後、日本の出版業界は迅速なる情報の共有化により流通の柔軟化を図り、現場の意思決定権の強化を進めていくことが課題と考えられる。この課題が改善されれば小型店でも希望の仕入れが行いやすくなり、大型店でなくても在庫の充実は計れると考えられる。

そして、既存の新刊書店はドイツやブックオフのように販売に積極的になるなどの意識改革が求められる。既存の流通により、全国にまんべんなく出版物が配本され、新刊書店の商品内容に違いがあまり見られなくなった近年では、漫然と配本された本を棚にさし、購入者を待つだけでは生き残れない。POSシステムなど既存のシステムをフルに活用し、店舗がある環境や顧客層の把握など自分の周りにある強み弱みを分析するマネジメント能力が今以上に必要とされる。

6. 参考文献

- [1]「出版指標 年報 2011年版」社会法人 全国出版協会・出版科学研究所著 2011年
- [2]「出版業界における規模型中古品事業のビジネスモデル-ブックオフと文芸堂の比較を通じて-」早稲田大学WBS研究センター 早稲田国際経営研究 山田英夫・大木裕子著
- [3]「ブックオフと出版業界 ブックオフ・ビジネスの実像」論創社 小田光雄著 2008年
- [4]「出版流通システム改革~再販制からの脱却を目指して~」日本大学法学部管理行政学科4年三好浩平著 2008年度卒業論文
- [5]「出版産業のビジネスモデルに関する調査報告 報告書」株式会社アクセル 2010年 など